

わかば

2019. 10. 12

(令和元年)
第19-24

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

教育目標 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

重点目標 **一人一人が輝く教育** ～期待登校・満足下校～(2年次)

小学部前期テスト、中高等学部の前期末テストの結果(報告)・・・指導の充実に

経年一覧は、傾向を見るうえでは実に分かり易いのですが、どうしても前年等と比べてしまい、「いいじゃないか!」「どうして下がった?」の気持ちが生まれます。

数値を見るうえで踏まえて大切なことがあります。それは、毎年、問題と受ける児童生徒が変わることです。また、平均ですので、児童生徒数の違いで数値は大きく変わり易くなります。

数値はあくまでも、学年の「学力の傾向」として見ていただければと思います。

一方、教師にとっては、個々の学力が把握でき、これまでの指導の成果や課題、また今後の指導に反映することができるまたとない機会が、本テストの良さです。今後も継続して、指導に努めて参ります。



毎年この時期に実施している本テストは、前期に学習した内容が理解され、定着しているかどうかを確認するためのテストです。小学部は、業者テストを使用して概ね高い点を得ており、各学年いずれも理解・定着していると判断してよいと思います。

中高等部は、日本の学校と同じように教師がテストを作成して実施しています。日本国内の平均点は、40～60点であることを考えると、本校の中高生はよく頑張っていると言えます。

いずれも平均ですので、当然ながら個人レベルでは違いがあります。そのようなことを知ることが、保護者や教師にとっては、今後の子への関わり方、学習指導のいっそうの充実につながります。

【2019年度 前期定期テスト結果 経年一覧表】



国語	平均点				算数・数学	平均点					
	2016	2017	2018	2019		2016	2017	2018	2019		
小学部	1年	95	93	92	98	小学部	1年	95	94	93	97
	2年	87	88	89	87		2年	88	89	89	87
	3年	87	79	78	73		3年	93	92	91	90
	4年	76	78	76	78		4年	86	90	89	87
	5年	79	81	79	78		5年	87	86	87	86
	6年	85	80	81	80		6年	90	88	86	85
中学部	1年	74	75	70	76	中学部	1年	75	78	75	73
	2年	67	79	74	74		2年	78	72	73	66
	3年	79	54	67	81		3年	80	60	62	69
高等部	1年	79	79	71	90	高等部	1年	66	67	50	67
	2年	71	73	73	76		2年	72	62	58	49
	3年	71	73	72	76		3年	72	62	80	63

児童生徒の作品紹介19



4, 6年の俳句や短歌、6年
未来を見つめた作文をご紹介します。
校長 信國 寿敏

6年生 俳句

あきの葉が いろとりどりに そまったよ

佐々木 大成

秋のとき はっぱが赤で さむくなった

豊田 アンナ

立秋だ 秋が始まる たのしみだ

カナ マーク

秋の時 はっぱが変わる 赤色に

関根 有美子

くり拾い めざせ夕飯 くりご飯

神田 宏平

秋の葉が 紅にそまって 紅葉だ

黒堀 結衣

立秋だ ああ秋だなあ 秋だなあ

小藤 魁

6年生 短歌

秋分は 昼と夜とが 争って

どちらが長いか 競い合う時

奥田 涼介

もみじの葉 分かれた葉っぱの 兄弟や

一つ一つの 葉が赤い時

高宮城 昊志



四季折々の景色や暑さ寒さなどを経験しながら生きてきた私にとって、秋は格別の美しさや情景を思い浮かべます。棚田のあぜ道に咲く彼岸花を見ると「秋だな！」と、つい口にしてしまいます。山の高度が増すごとに色合いを変える俳句に出てくるもみじや木々の葉っぱも、100万色の重なりがあるようで、実に美しくいいものです。

でっかいいちょうの木が校庭にある学校に勤務した時は、真っ黄色な葉が見事でした。子どもたちは、時期になるとたくさんの落ち葉を拾っては、宙に飛ばすことに夢中になったものです。その光景も学校らしく、とっても素敵な学校でした。



本校の子どもたちもこれまでの経験から、秋の葉っぱの美しさばかりでなく、擬人化して観たり、影像化したりしているようです。食欲の秋らしい栗ご飯の句もあり、日毎に秋の深まりを感じます。

4年生 俳句

秋が来た

木の葉が散った

散っていく

矢巻 玲旺

音がする

秋の音だな

松虫だ

山崎 香奈

秋の日だ

虫のうた声

いい声だ

長田 譲太郎

風がふく

すすきはゆらゆら

ダンスする

井庭 由希菜

くつわ虫

秋の楽しい

コンサート

アイヴァセン ヘンリー

虫しぐれ

美しい音

秋を聞く

横山 春輝





夏のセミの音は、暑さも手伝ってうるさく感じる時もありますが、秋の虫の鳴き声は、なにやら心が落ち着くように感じます。わびしさやもの悲しさでしょうか、日本人独特の感性かもしれません。

子どもたちは、やはり子どもらしい楽しさとして音を味わっているようです。草木の揺れる様も踊りのようにとらえているところがいいですね。愉し気です。

虫たちの声の合唱、合奏でしょうか、あちらこちらで聞こえる虫の声は、コンサートにたとえていてアニメ的な擬人化のイメージで秋をとらえているようです。

※次号は、1, 2年生の作文をPDF形式で紹介しします。また、6年生の俳句や作文もあります。

6年生 作文

「全世界の人が分かり合うために」

太田 野乃

全世界が平和に暮らすためには、おたがいを知る必要があると思う。それが、世界が平和になるための、一番大切なことだ。

つい最近、私は、おながいがたくて病院に行った。英語が得意でない私は、病院の先生の言っていることがあまり分からなかった。しかし、この「アメリカ」という国には、私のような人のための、とてもいいシステムがあった。通訳の人が、テレビ電話で先生の言っていることを、日本語にして話してくれるのだ。そのおかげで、私は自分がどういう状態で、どうすればいいのかわかることができた。

学校でも、「ES」や「ED」などの英語が母国語ではない人を助けるクラスが設けられており、「外国人」に対して、とても優しいと思った。これから、「外国人」をたくさんむかえ入れ、観光大国になろうとしている日本は、このようなアメリカの行動を見習った方がいいと思う。

ただ、約二百もある国の全ての国々が、通訳や「ED」のクラスを学校や病院に入れられるとは考えにくい。しかし、少しずつでも、「外国人」を助けてくれる人や物、活動が増えていければ、いつかは世界中に広まっていくだろう。

違う国で生まれた人や、違う言葉を話す人が、他の人と理解するのはとても難しいと思う。しかし、全世界の人が、何らかの手段で、お互い理解することができたら、それは、「平和」と言えるのではないだろうか。病院の通訳や「ED」のクラスは、世界中を平和にするための第一歩だと思う。



「リサイクルでよりよい未来を創ろう」

タニ 美麗

ゴミやプラスチックを海から出すこと。これは、よりよい未来を創るにはしなくてはなりません。そのためには、人々は、ゴミやプラスチックを海にすてないでリサイクルをしておくこと。これは、私のよりよい未来への第一歩。

まい月一回、お父さんはカルフォルニアへでかけ、会社に行きます。その会社で海にあるゴミやプラスチックをとりまします。そのプラスチックをとったら車を走らせるオイルにかえます。お父さんの話を聞いて、楽しくなりました。お父さんが出かける前に言いました。

「いつもお金のもんだいじゃない。海で生きていく生物のもんだいだ。」

その日のお父さんのことばは、心に残りましました。ほかの人々がゴミやプラスチックを海にすてなければ、よりよい未来はつづく。すてなければ生物たちは、えさとは思わないので食べません。生物たちは死にません。

だから、私は、世界中の人々がきょうりよくしたら、よりよい未来に近づけるかと考えています。私は、ゴミやプラスチックを海にすてなければいいと思います。



言葉やコミュニケーションがいかに大切かは、病気のような困った時に痛感するものです。自分の体験から言葉をとおした理解し合うことの大切さを、実に分かりやすく書いた作文です。

海の生き物を守ることの大切さの文中に、父親への尊敬や敬愛を感じる作文です。また、最初の一歩を誰かが歩み出せば、協力する人も二人、三人と数を増していき、大きな力となります。現代はSNSの時代ですので、呼びかけたら呼応する人は必ずいるはず。※次号も、6年の作文が続きます。

事務局からのお願い……漢字検定のボランティア募集



10月26日の漢字検定のボランティアを募集しています。

◇募集人員：4～5名程度

◇日時：10月26日(土) 午後2時45分～午後4時30分

◇場所：ポートランド日本人学校



お引き受けることができる方は、学校で直接声をかけて頂くか、事務局までご連絡をお願いします。

TEL (503) 641-9200

pjs@shokokukai.org

バザーご協力のお礼とご報告



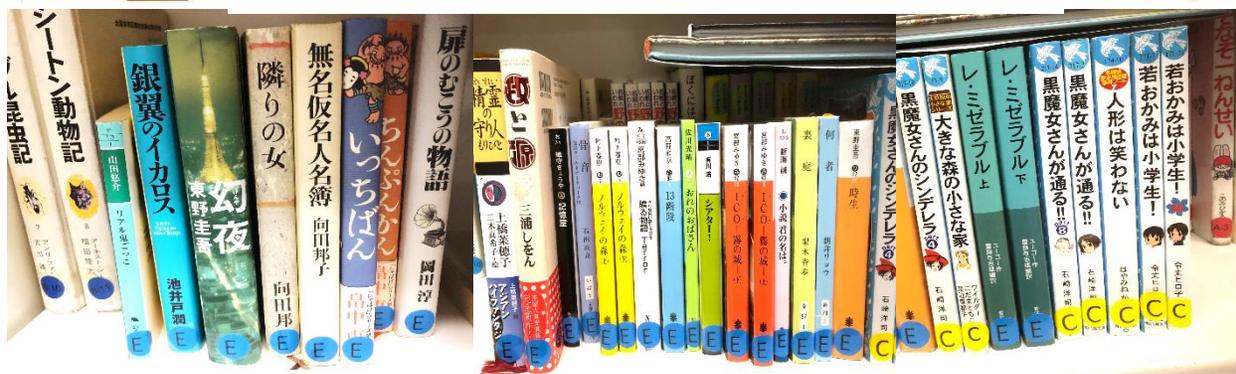
9月14日に開催された日本人学校バザーに際し、保護者の皆様には、多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございました。誰もが笑顔に満ちた楽しい時間を過ごすことができました。

おかげさまで、今回は、昨年を上回る約\$12,000ほどの収益をあげることができました。本収益金は、「より良い学校運営を実現するための資金」「学校授業用備品購入」「各種学校行事を実施するための費用」「借用校への寄付」等、として活用させていただきます。ありがとうございました。

※次号から、多くのバザーに関する作文などを紹介できるものと思います。



バザーで本をたくさんいただきました。



毎年、バザーの折に多くの本を寄贈いただいています。今年もたくさんいただきました。

本校の子どもたちにとっては、日本語力を伸ばしたり、これから生きるうえでの貴重な知識などを得たりすることができる大切な本ばかりです。大切に読ませていただきます。ありがとうございました。

その他、公益財団法人 矢野恒太記念会からの寄贈本として、学習で使える「日本国勢図会」「世界国勢図会」「日本のすがた」を各2冊いただきましたので、紹介をいたします。

なお、先週号でご紹介した本と同じように、台帳に載せたりラベルをつけたりするので、今しばらく貸し出しは、お待ちください。